

【投稿記事】  
ほくごう納涼祭に参加して

今年が7回目となる「ほくごう納涼祭」が8月17日、集落活動センター北郷で開催されました。

過疎化と高齢化の進む北郷地区ですが、午前中からの会場設営には、数少ない地区の若者や、地区を離れている若者たちが仕事の休みを取って参加。自分の生まれ育った北郷を盛り上げるために力を貸してくれる姿に、心強く、たくましく感じました。また、女性部は、早朝から出店の料理や応援男子の昼食づくりなど、料理関係の段取りをしてくれました。

午後6時、ちょうちに明かりがともり、祭りがスタート。恒例の「ばんごはんタイム(うまいもの市)」で地元のお母ちゃんの手作り料理がどんどん売れて完売の中、盆踊りが始まりました。

盆踊りで盛り上がり、打ち上げ花火が始まり、大きな音と



すっかり暗くなったグラウンドに踊り子の浴衣姿が花を咲かせました。

共に夜空いっぱいに見るような花の輪が広がり、大きな歓声が上がりました。一瞬の美しさに魅せられたほくごう納涼祭でした。

私も12年前、この北郷に移住してきましたが、遠い昔、大阪富田林でのPL花火大会を思い出しました。規模は小さくても、この地域に元気を！活力を！とみんなが一つになり、継続することが大いに力になってくれると思います。

(大井川・津守正行さん)

海から山から地域を元気に！  
「黒潮町農漁村女性の集い」

9月2日、黒潮町農漁村女性グループ研究会による第33回黒潮町農漁村女性の集いが「海から山から地域を元気に！」をテーマに開催され、77人が参加しました。

午前の部は、黒潮町内の活動紹介。町農業振興課と海洋森林課より、農業・漁業への支援策について説明を行ったほか、黒潮一番館の境文子さんより、黒潮カツオ体験の活動報告。最後に、県外からのインターン就農者である杉本憲司さんが、「就農して感じたこと」と題して発表しました。

昼食は、JA女性部浮津地区の皆さんの手作り弁当を食べました。



午後の部では、一般社団法人うみ路代表理事の蜂谷潤さんを講師にお招きして講演会を行いました。テーマを「地域の思いを形に〜室内での仕事づくり〜」として、地元の人になかなか気付かない地域の資源や魅力を、外の視点から発見し、地域の活性化や雇用の創出に結び付けていく活動について、蜂谷さんの経験を中心に発表していただきました。

参加者からは、「若い方が頑張っている姿を見て元気づけられた」「杉本さんのインターン就農の体験談がとても良かった」「普段は自分たちだけで考えてしまうことが多いが、外の意見を取り入れることの大切さを感じた」などの意見がありました。

町では今後も、農漁村女性グループの活動を支援していきます。

(農業振興係)

上林暁文学館の入館者増加！  
「散花」「幡多と戦争」月末まで

大方あかつき館は、今年4月からNPOあかつきの運営となり、企画展や館内環境にも力を入れて取り組んでいます。

8月から戦争にまつわる企画展を行っています。2階・上林暁文学館では、黒潮町出身の野並哲さんと宮川正さんの2人の特攻隊員と、訃報に接した家族の心情などを描いた作品「散花」の特別企画展。1階では、黒潮町や四万十市出身の兵士らが家族にあてた手紙などを展示した資料展「幡多と戦争」。町内在住の家族らのコメントもあり、第2次世界大戦がより身近なものとして胸に迫ってきます。

文学館の入館者数は、8月の1カ月間で624人に上り、例年を大きく上回りました。

展示は10月末まで行われますのでぜひお越しください。

